

近代日本経済史

結城 武延 准教授

1) 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

日本経済史・経営史を中心に、比較歴史制度分析の観点から、企業金融史・資本市場史・コーポレート・ガバナンス史を横断的に研究しています。とりわけ戦前から戦時期日本を主対象として、株式会社制度の形成と普及、財閥を含む大企業の内部組織・投資と成長、銀行・生命保険など機関投資家の行動と金融システムの関係、一次史料と統計データの統合により実証的に解明することが主な研究課題です。

現在は、自然災害や戦争といった大規模ショックが株式市場や企業行動に与えた影響を日次・銘柄レベルのデータで再検証するとともに、近代紡績業の多工場制における資源配分と組織能力の進化を歴史統計・企業記録に基づいて分析しています。また、財閥の組織構造と意思決定過程の関係について、内部資料に基づいて実証的に解明する研究を進めています。

2) 指導方針

- **基礎の徹底**: 1年次前半は経済史研究に必要な基礎(歴史学的な実証方法、ミクロ経済学やゲーム理論の基礎、統計・計量の基礎)を段階的に習得します。後半以降は経済史・経営史の先行研究を集中的に輪読し、史料読解やデータ作成と分析を通じて実証技能を獲得します。
- **テーマ設定と研究設計**: 1年次後半に研究テーマと使用史料の見取り図を策定し、資料調査に取り組むように指導します。2年次から資料の分析と論文作成を進めます。英語論文執筆も指導対象です。

3) 学生に対する要望・その他

- **指導要件**: 史料批判等の歴史学的実証方法、ミクロ経済学やゲーム理論といった理論的フレームワーク、ならびにR/Stata/Python等の統計ソフトを含む研究ツールの習得に、主体的かつ継続的に取り組むことを指導要件とします。入学時の経験は問いませんが、短期間での習得に向けた意欲を重視します。
- **言語・調査**: 日本語・英語の学術文献の読解、積極的な史料調査を行うこと。文献や史料に向き合う粘り強さと誠実さを最重要視します。
- **期待する姿勢**: 経済史・経営史は経済学・経営学と歴史学の交差点にある学際領域です。そのため、必要に応じて隣接諸分野の基礎や方法論を学び取る柔軟性と、新たな領域の学習を厭わない積極性を重視します。